馬頭観音（ばとうかんのん）

江戸時代から、国内の移動が多くなり、馬が移動や荷物運びとして使われることが多くなりました。これにともない、馬が急死した所に馬頭観音が多くつくられ、動物への供養塔（くようとう）としての意味合いが強くなりました。愛する馬への供養（くよう）としてつくられました。